

瀬戸内海

瀬戸内海に強風をもたらす3通りのモデル経路を抽出した。また、それぞれの経路ごとに、播磨灘北部(A点)及び広島湾(B点)の風向風速と波高の推算値の経時変化を図示している。

- ①経路：海域の北方を北東進する台風〔右半円〕
強さ：ほぼ中程度(B) 速度：中間程度もの(M)
- ②経路：海域内を北東進する台風〔直上〕
強さ：最強(A) 速度：中間程度もの(M)
- ③経路：海域の南方を北東進する台風〔左半円〕
強さ：最強(A) 速度：中間程度もの(M)

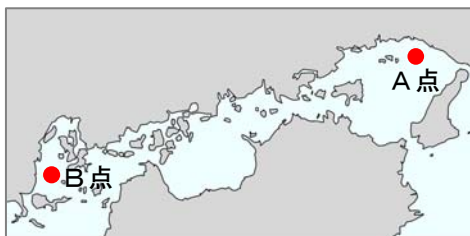


図 74 風と波の経時変化の推定地点

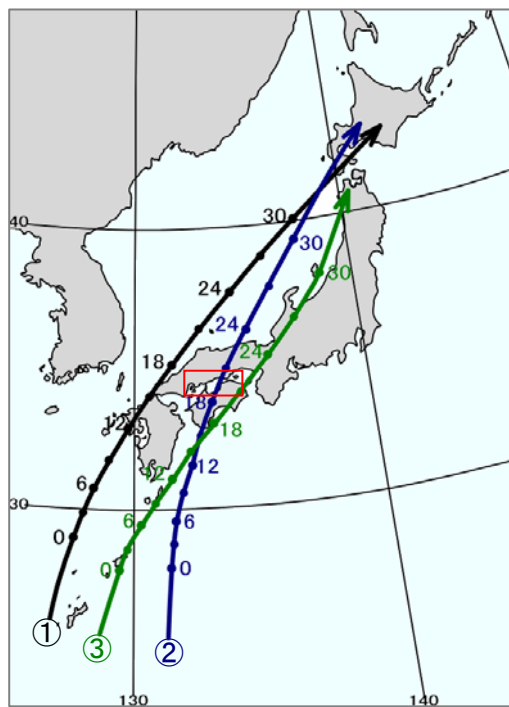


図 75 モデル台風の経路図

モデル台風 ①・・・台風が関門海峡付近を北上（瀬戸内海が右半円）

瀬戸内海全域が右半円に入るため、風向は、南東→南西に変化し、風速は、最接近から 1~2 時間して南南西風のところに最大に達する。波高は、南寄りの風が長時間吹き付ける広島湾、備後灘北部及び播磨灘北部の本州沿岸で高くなり、陸風となる四国沿岸では高くない。

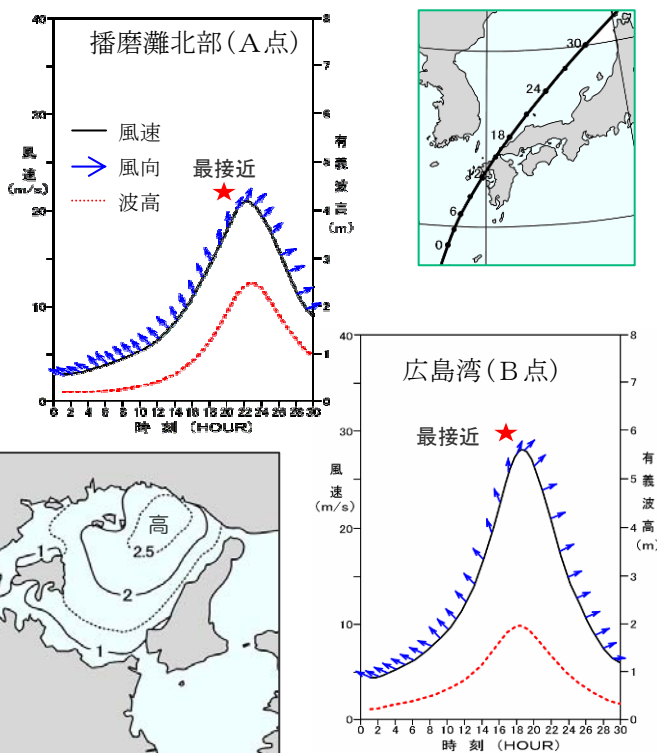


図 77 風向風速、波高の経時変化



図 76 最大波高出現時の有義波高の分布

モデル台風 ②・・・台風が瀬戸内海中央部を北上（燧灘・備後灘直上を通過）

風は、右半円の播磨灘北部では、東→南→西に変化してかなり強く吹き、逆に、左半円の広島湾では、東→北→西に変化するが右半円ほど強くはない。波高は、播磨灘北部では、南寄りの風が長時間強く吹くため、かなり高くなり、播磨灘周辺での錨泊には注意を要する。また、左半円の備後灘や燧灘など四国沿岸でも北よりの風で波高が高くなる。



図 78 最大波高出現時の有義波高の分布

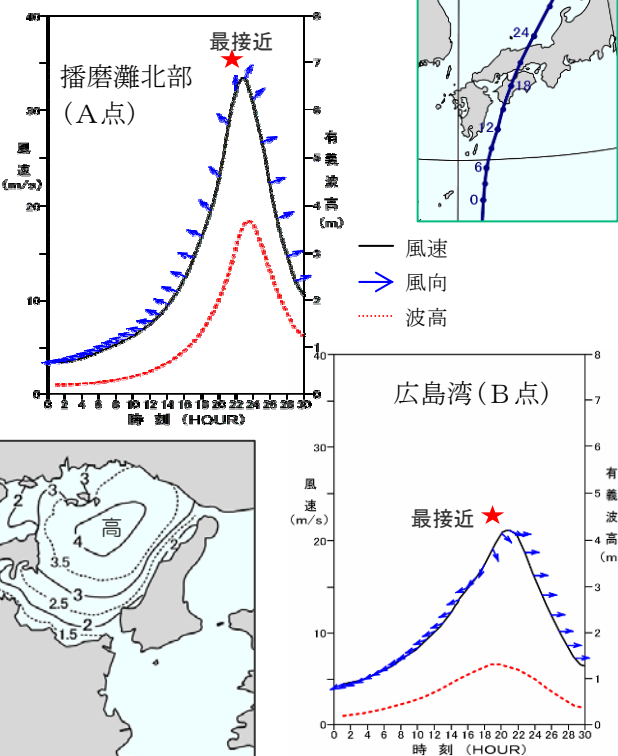


図 79 風向風速、波高の経時変化

モデル台風 ③・・・台風が大阪湾を北上（瀬戸内海が左半円）

瀬戸内海全域が左半円に入るため、風向は東→北→西に変化し、台風に近い播磨灘北部では最接近時に風向が急反転するので注意を要する。風速は、最接近後に風向の変化とともに最大となり、波高は、広島湾などの本州沿岸では高くないが、吹き返しの西風によって播磨灘の淡路島側や燧灘で高くなる。



図 80 最大波高出現時の有義波高の分布

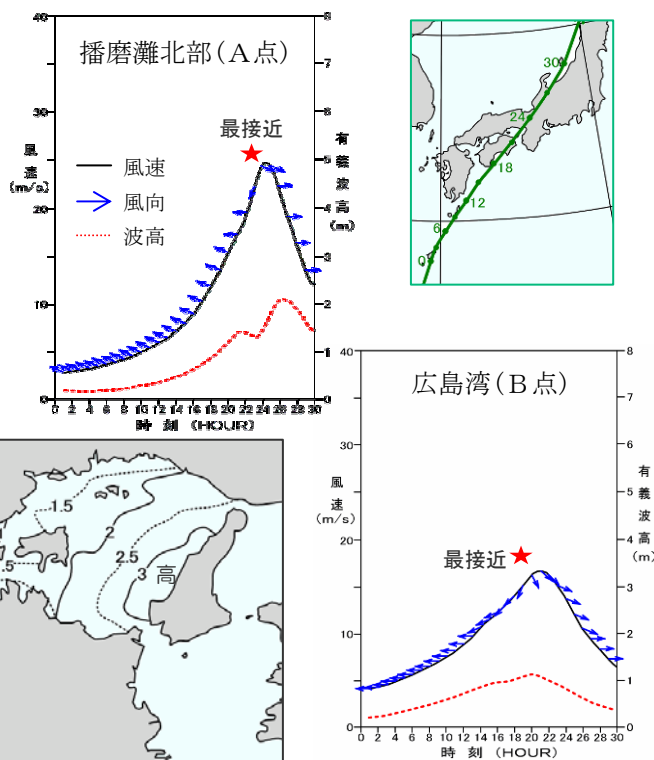


図 81 風向風速、波高の経時変化

海難分析集No.6 「台風と海難」

2006年発行

問い合わせ先

〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-2
高等海難審判庁総務課海難分析情報室（首席海難防止調査官）
電話 03-5253-8821
FAX 03-5253-1680
メールアドレス maia@mlit.go.jp
ホームページ <http://www.mlit.go.jp/maia/index.htm>

この分析集は海難審判庁のホームページでもご覧になれます。

資料及び写真提供：消防庁，気象庁，海上保安庁